更新手順書

件名：令和7年国勢調査 都道府県別人口の図表化・ホームページ掲載用データの作成

本書は株式会社行間が自主的に制作した制作例に添える文書です。受託業務の納品物ではありません。手順は、この一式で実際に数値を作り直したときのものです。

1. この手順書の対象

新しい統計表が公表されたときに、図表ページの数値・表・CSV を差し替える手順です。同じ形式の表（国勢調査 人口等基本集計 第1-1表）であれば、文言の一部を除いて手作業で数値を書き換える箇所はありません。

想定する更新	次回の国勢調査の公表、または同じ表の数値の訂正
作業の目安	30 分〜1 時間（表の形式が同じ場合）
必要なもの	Python 3（標準ライブラリのみ）、Node.js 18 以上、Google Chrome。インターネット接続はデータの入手だけに使います。

2. 一式の構成

ファイル	内容	更新のしかた
`app/index.html`	図表ページ（日本語版）	一部自動
`app/en/index.html`	図表ページ（英語版）	一部自動
`app/3d.html`	立体表現のページ（表現の提案）	文言のみ手作業
`app/style.css`・`app/app.js`	見た目と、グラフ・地図・並べ替えの処理	変更不要
`app/data.js`	グラフと地図が読み込む数値	自動
`app/data/*.csv`	ダウンロード用の数値（都道府県・市区町村・英語版）	自動
`works-src/estat-visualization/source/b01_01.xlsx`	e-Stat からダウンロードした原ファイル	差し替え
`extract.py`	原ファイルから数値を取り出し、上の「自動」のファイルを書き出すプログラム	表の形式が変わったときのみ
`check.py`	原ファイルと掲載物を照合し、数値チェックシートを作るプログラム	変更不要

図表ページは外部のサーバーやライブラリを使いません。`app` フォルダをそのまま置けば、ウェブサーバーでもパソコン上でも同じように表示されます。

3. 更新の手順

3-1. 原ファイルを入手する

1. e-Stat（政府統計の総合窓口）で、国勢調査の「人口等基本集計」の統計表一覧を開きます。今回使った表は次のとおりです。

表番号	第1-1表
表題	男女別人口、世帯の種類別世帯数及び世帯人員並びに2020年（令和2年）の人口（組替）…人口密度－全国、都道府県、市区町村（2000年（平成12年）市区町村含む）
統計表ID	`000040506423`（公開日 2026-09-29）

2. 「Excel」のリンクからダウンロードし、ファイル名を `b01_01.xlsx` にして `source` フォルダに置きます。前のファイルは `source/old/` などに移して残しておきます。

3-2. 数値を取り出す

```
python3 -I works-src/estat-visualization/extract.py
```

正常に終わると、次のように件数と全国の値が表示されます。

```
全国 1・都道府県 47・市区町村 1719 行を書き出しました
全国 人口 122,972,528  増減率 -2.52%
```

プログラムは次のときに止まり、理由を表示します。表示に従って原ファイルを確かめてください。

- 都道府県の行が 47 行ない、または名称が都道府県の一覧と一致しない
- 市区町村名に想定外の文字が含まれている
- 47 都道府県の合計（人口・2020年の人口・世帯数）が全国の値と一致しない

3-3. 照合して数値チェックシートを作る

```
node works-src/build.mjs estat-visualization check
```

図表ページを Chrome で開いて表示された値を読み取り、原ファイルと照合します。最後の行が「不一致 0 件」であることを確かめます。不一致があると一覧が数値チェックシートの 5 に出て、終了コードが 1 になります。

3-4. 手作業で直す文言

年や調査の回が変わったときだけ、次の箇所を書き換えます。

ファイル	箇所
`index.html`	タイトル、見出しの上の調査名、図のキャプション（「2020年の人口は…」）、出典（表番号・統計表ID・公表日）、注記、フッターの公表日
`en/index.html`	上と同じ箇所の英語
`3d.html`	見出しの下の調査名・時点、出典の行、図の説明（読み上げ用）
`extract.py`	`meta` の調査名・統計表ID・公表日・時点

書き換え漏れは、古い年の文字列で検索して確かめます。

```
grep -rn "令和7年\|2025年\|2020年\|2026年9月29日" public/works/estat-visualization/app/
```

3-5. 画面で確かめる

1. app/index.html をブラウザで開き、導入文の全国の値、図1 の 1 位と 47 位、図2 の色分けの件数（凡例の括弧の数）を見ます。
2. 図1 の「増減率」ボタン、表の列見出しの並べ替え、図3 の都道府県の切り替えを一度ずつ操作します。
3. 英語版（en/index.html）で同じことを確かめます。
4. CSV を Excel で開き、文字化けがないこと、行数（都道府県 48 行、市区町村は抽出時に表示された件数）を確かめます。

3-6. ウェブサイトに掲載する

1. app フォルダの中身を、掲載先のディレクトリにそのままアップロードします。ファイル同士は相対パスでつながっているため、置き場所は問いません。
2. 実際に掲載するときは、ページ上部の「株式会社行間の制作例です」の帯（ ）と、<meta name="robots" content="noindex"> を削除します。
3. 掲載後、公開された URL で 3-5 の 1・2 をもう一度行います。

4. 表の形式が変わったとき

列の並びが変わると、取り出す列の番号を直す必要があります。extract.py の冒頭にある C_POP（人口）などの列番号を、原ファイルの表頭（「表章項目」の行）と照らして書き換えます。表頭は次のコマンドで確かめられます（先頭 16 行を head.txt に書き出します）。

```
python3 -I works-src/estat-visualization/xlsx.py works-src/estat-visualization/source/b01_01.xlsx /tmp/hyoto 16
```

列を直したあとは、3-2 から順に行います。照合で不一致が 0 件になれば、列の対応は正しく直っています。

5. 数値の扱い

- 原ファイルは小数を含む原数値です。表示の桁は、増減率が小数第2位、面積が小数第2位、人口密度が小数第1位、図2 のマスが小数第1位です。
- 順位は表示した桁ではなく原数値で付けています。表示が同じ値でも順位が分かれることがあります。
- 2020年の人口が 0 人の市区町村は、増減率を「ー」にしています（今回は福島県双葉町）。
- 出典は、総務省統計局のホームページの利用規約（公共データ利用規約 第1.0版）に従い、出典と「加工して作成」の旨を記載しています。